

ー給食室からー

おせち料理とは、年のはじめに平和と健康への祈りを込め、大地や海、草や木、水などに感謝をする食事です。一つ一つの料理に意味があります。保育園でも1月5日におせち料理、1月7日に七草がゆを食べ、日本の昔からある食文化に触れたいと思います。

スーパーや百貨店などで幅広く取りあつかわれていますが、1品でも2品でもぜひ手作りして、子どもたちにそれぞれの過程の味も伝えてもらえたらと思います。

☆おせちのメニュー

- ・ぶりのてりやき…出世魚なので縁起が良いと言われています
- ・紅白なます…紅白がおめでたい彩りで水引にも見立てているそうです
- ・煮しめ…手綱こんにやく（心を引き締めるという意味があります）



れんこん（まっすぐの穴がいくつもあるので「先が見通せるように」という意味があります）

- ・くりきんとん…黄色なので金運が上がりますようにと願いを込めた1品です

☆保育園で人気の絵本☆

ー子どもたちに絵本を 絵本は心の栄養になります

2歳クラスから

たくさん読んであげてくださいー

『とんとん とめてくださいな』

ぶん こいでたん え こいでやすこ

ハイキングに出かけた3匹のねずみは、帰り道の途中で道にまよってしまいます。あたりを見回すと、遠くに一軒の家を見つけました。泊めてもらおうとドアをたたきますが、中には誰もいません。しばらくすると、またノックの音が聞こえて、うさぎが、続いてたぬきが「とめてくださいな」と入ってきました。そして今度はドアから大きな黒い影が入ってきて……！ ちょっぴり怖くて、最後には心が温まるお話です。3匹のねずみ、よく見ると、少しずつ性格が違います。臆病ものだったり、甘えん坊だったり……。道に迷った時に家のあかりを見つけるとホッとして、親切にしてもらうとあたたかい気持ちになります。住むだけではなく、人を守り安心できる場所もまた家という大切な場所なのです。

3匹のねずみの本は、これ以外に「はるですはるのおおそうじ」

「とてもとてもあつひ」「ゆきのひのゆうびん屋さん」があります。



育児で大切なこと

2歳児

『何でも自分で』

2才を過ぎたあたりから、何でも自分でやれるようになっていく子が増えていきます。

それと同時に、親の言うことをなかなか聞かなくなるため「魔の2歳児」と言われています。

特に、2才後半から3才にかけては「言語に関係した脳の回路」がどんどん増加していく時期なので言葉の発達が急速に進み、「これやりたい！」「それはイヤ！」と自己主張する言葉も覚えてきます。注意をしてもなかなか聞かなくなったり、子ども同士でけんかをしたりすることも多くなっていきます。そんな時は「ダメ」だけを伝えるのではなく、しっかりとお互いの子どもたち思いを言葉に出して聞いてあげることが大切です。自分だけでなく、相手にも思いがあることを感じれるようになっていきます。また、簡単なことなら、お手伝いもできるようになってきます。「〇〇してくれてありがとう」とほめてもらうと「またやりたい！」という意欲につながっていきます。

人とのかわりや経験の中で、だんだんと「自分の力でやってみよう」と思うようになっていきます。